

未来に水色の贈り物

山添村立山添中学校 三年

山本 みか

白い画用紙に書かれた、茶色い水をすくいはほ笑む一人の少年の絵。私はそれを見てから改めて、美しい水を使って生活できているありがたさを感じ、水に対しての見方が変わったように思います。

私の家では農業をしています。私の家の近くに村で一番大きい名張川という川も流れています。小さなころから私は、季節の移り変わりを肌で感じて育ってきました。暑い季節がやって来ると畑は忙しくなります。そこで私の役割は、水やりです。朝と夕方に一回ずつやるのですが、枯れないように水をやり続けるのは、とても大変です。夕方ホースで水やりをしていると母が来てこう言いました。「こうして水をあげていると野菜たちの声が聞こえてこない。水を使う権利は皆平等

で、水を必要としているのは私たち人間だけではないの。」と。この言葉を聞いて、蛇口をひねり、自由に水を使えている暮らしを改めて見つめ直すことができました。

私たちが使える水は地球上の〇・〇一％でしかありません。今私たちに求められているのは、その水をいかに大切に使うかです。水は繰り返し利用することができません。そう思った私は、水やりの水をドラム缶に雨水などをためて利用しようと思いましたが、その姿を見て、家族も水を有効に使うことに協力してくれました。その次の日から、水の出っぱなしの音は聞こえなくなりましたし、台所に油や食べ残しのスプーンを流さないようになりました。こういった小さなことから始めた今で

は、家族全員で水の無駄使いに気を付けるようになりました。

私は昨年水道管の工事のため、一日の断水を経験しました。水が止まる前日に、お風呂一杯分の水と、一鉢のペットボトル7本に水をため断水に備えました。次の日起きて顔を洗おうと洗面場の蛇口をひねり、水が止まったということを感じました。いつも当たり前前に使っている水なので、ついそのありがたさを私たちは忘れがちになります。しかし、蛇口をひねり私たちが水を使うまでには、多くの人の手や自然の力によって支えられています。そう考えると、私たちは一滴の水にも感謝して大切に使うことが必要となります。祖父は名張川で鮎釣りをしている人を見ながら言っていました。

「昔は、みんな夏になると名張川で泳ぐのを楽しみにしていたね。よく泳いだものだ。しかし今では、もうそんなことはできないよ。」確かに名張川は私の小さな時とはちがって、澄んだ色を失い油やゴミも浮くようになってしまいました。それは私たち人間が必要以上に便利な生活を求めた結果なのです。

私たち人間はもとより、この地球上の全ての者が水を必要とし生きています。その水を人間の責任で汚すことは決して許されません。私は川岸に浮いたゴミをクリーンキャンペーンの時に拾うようになりました。私は昔の澄んだ色の名張川を取り戻すまで続けようと思います。

水は雨となり大地となり海となつて地球を支えています。しかし人間はその道筋を変え長い旅をした水をやつと手の届くものにできるのです。一人一人がそのことに気づき水を汚すことなく自然に返さなければなりません。水は変わりゆく地球を人類が誕生するよりもっと前から見てきました。私たちはそのありがたさを感じながら動物や植物たちと共有することが大切です。私はこの世界に生きる人にとつての水が水色で美しいものであってほしいです。私たちは水の惑星に生きています。またこの星でしか生きていけない。地球に生きる一員として、未来に美しい水を残す第一歩を踏み出すことが私たち人間の使命です。